

平成18年第1回 洞爺湖町議会定例会一般質問

質問議員	件名	質問要旨	備考
6番 小松 晃 (一問一答方式)	1. 新町初代町長として、新しいまちづくり・新町建設計画の具体策について	(1) 今回の選挙で「合併を進めて来た者として、新町建設計画を推進するのが自分の任務だ」と言っていたようですが、今年度を初年度とするこの計画をどう具体化し実行して行くのか。 (2) 中でも「活力に満ちた元気産業のまちづくり」が最初に、しかも最も力を入れなければならないのではないかと思います。経済の活性化をどう進めるのか。 (3) 10年間の計画としては大変きついのではないかと思います。財政的な事情等から大幅な遅れや計画倒れに終ることは無いのか。	
	2. 旧町からの懸案であった事項について (再確認)	(1) 畑かん施設が花和では未だ十分活用されていないように見られるが、この間施設の整備は進められたか。又、利用状況はどうか。(洞爺地区との整備状況や利用状況の違いは無いか) (2) 「危険がいっぱい、拡幅の必要性は十分認識している」と言っていた、母と子の館前の踏切拡幅整備の考え方を伺います。	
21番 佐々木 良一 (一問一答方式)	1. 総合窓口の設置及び行政窓口のワンストップ化について	(1) ITの進展により、行政窓口は全国的に大きな変革期にあると言われていています。洞爺湖町においても全職員へのPCの配置、庁内LANの整備、支所間の光ケーブルの設置とそのインフラ整備は進みました。合併により、より以上の住民サービスの向上を計る為、総合窓口を設置し、行政窓口のワンストップ化を計るべきと考えます。結果住民サイドでは、町のHPからインターネットや携帯電話を通じて総合窓口へのアクセスによるワンストップ化が計られる。又機械操作の出来ない人にデジタルデバイドによる社会的弱者が生じない対策として、窓口業務のワンストップ化による利便性と満足度が高められる。 行政サイドでは、バックオフィス業務のIT化による内部事務の集中処理、アウ	

		トソーシングにより、従来の事務手順を見直すことで、行政運営の効率化が可能になり、スリム化が計られる。双方に大きな利点があります。	
		ホスピタリティを重視した接遇改革の目玉として、合併による行政改革として、早期に住民サービスの向上を計るべきと考えるが、現在の状況及び今後の対応方について伺います。	
2. 農業センターの管理運営並びに活用策について	(1)	管理運営を民間委託する考えは。先ず行政の農業センターに対する考え方、認識について伺います。 農業者及びJAの評価をどう受け止めているか。 地域振興に対する貢献度について。 都市と農村の交流の場としての評価。 各部門及び施設の有効活用について 上記 ~ を踏まえた費用対効果について。 以上の事柄を考慮し、将来の管理運営を考えると、民間委託やJAとの関係も重要な選択肢と思われませんが、今後の管理運営の方向について理事者の考えを伺います。	
	(2)	農業センター周辺を「道の駅」として活用する考えは。 札幌圏から洞爺湖町の玄関機能、国道230号の通行量、景観にフィットした位置、とれたて市協議会による土日農産物販売実績等を考慮すると、農業センター周辺を洞爺湖町のインフォメーション機能を備えたバックヤードを持つ特色ある体験型道の駅として活用すべきと思われるが、理事者の考えを伺います。	
3. 職員の評価制度導入について	(1)	地方自治体の財政が非常に厳しい中、多くの自治体が管理職、しいては一般職の給与引き下げに踏み切っています。 私は一律何%引き下げと言った手法に対しては疑義を感ずる。意欲的に働く職員に対しては公明・公正な評価制度上に立った給与体系を作るべきと思うので、理事者の考え方並びに対応策について伺います。	

23番 松井保明 (一問一答方式)	1. 新町における行財政運営について	(1) 新町における財政基盤の強化について。	
		(2) 財政運営にあたり特に経常経費(人件費及び物件費)の縮減について。	
		(3) 自主財源確保について。	
		(4) 集中改革プランの取組について。 (検討内容と議会及び住民に公表する時期)	
	2. 農業の就業人口について	(1) 洞爺地区における農業の就業人口確保についての対策は。	
		(2) 団魂の世代をむかえるにあたり、農業の就業人口増に結びつくための対策は。	
		(3) 遊休地又遊休牧場(成香牧場、洞爺牧場)廃校を再利用しての農業の就業人口確保について。	
		(4) 受入れとして窓口相談コーナーの設置について。	
	3. 道立及び町立(旧洞爺村立)高等学校について	(1) 両高等学校の存続のあり方についての町の考えは。	
17番 高橋利典 (一問一答方式)	1. 地域審議会等の委員構成と効果的運営について	(1) 地域審議会については、先の合併協議会において「虻田地区及び洞爺地区にそれぞれ地域審議会を設置し、町長から設置区域に係る新町建設計画の変更及び執行状況等について諮問を受け、審議・答申する」と規定されているが。	
		(2) 町長も町政執行方針で、「洞爺湖町のまちづくり総合計画の策定にあたっては、地域審議会やまちづくり審議会の設置を進め、本年度中に関係機関との協議を行う」とあるが。	
		(3) 地域自治組織の目指すところは住民協働型の自治体経営そのものであり、本町も合併を機に、「住民の、住民による、住民のための町政」の実現に向けて、地域審議会あるいはそれに類した附属機関を、町政執行者にとって「真に洞爺湖町の将来に向けた共同経営者である」と確信できるような委員構成と効果的運営を図るべきではないでしょうか。	

18番 立野広志 (一問一答方式)	1. 町民生活や産業の実態認識と予算編成の考え方について	(1) 国の「三位一体改革」の影響、道の「再建プラン」などによる影響。	
		(2) 年金、医療、介護、障害者など、相次ぐ改悪による町民生活に及ぼす影響。	
		(3) 基幹産業の主要な経済指標と景気の動向や雇用の見通し。	
		(4) これらの影響や実態を踏まえ、町民生活を守るために、どのような町政運営を行うのか。	
	2. 新町建設計画の事業見通しについて	(1) 合併後の新町建設計画として、継続及び新規事業は、虻田地区は17件、81億2376万円。洞爺地区は27件、28億1930万円。両地区合計で44件、109億4306万円のハード事業を見込んでいる。町の負担も約53億8411万円、49.2%に及ぶ。これらの事業見通しや財政計画を示されたい。	
		(2) 町の財政状況を踏まえ、優先度を明確にして計画の整理・見直しをすすめる必要があるのではないかと。	
	3. 洞爺温泉郵便局における配達業務等の廃止計画に対する対応について	(1) 07年10月までに温泉郵便局の郵便物収集・区分・配達の業務を廃止するとの計画が出されていたが、その後、06年に早まったとの情報があるが、計画の詳細を把握しているか。	
		(2) 3月定例会で、配達業務廃止計画について、町長は「...関係機関に要望や意見を申し述べたい」と答えたが、その後の要請内容について示されたい。	
		(3) 仮に、計画通りに行われた場合の地域での影響、住民の不安や意向をどのようにとらえているのか。	
		(4) 廃止計画を安易に認めることなく、雇用、郵便サービス、地域福祉の面から計画撤回を求める対応を行うべきではないかと。	
10番 中村千世子 (一問一答方式)	1. 漁業系廃棄物処理施設「海の華」について	(1) 環境保全や施設の管理・運営などについて伺います。	

	2. 非核・平和のまちづくりについて	(1) 新生洞爺湖町として、町民の平和と安全、地域社会の発展のために、また観光都市にふさわしい平和行政を広げるためにも、自治体として「非核・平和の洞爺湖町」の宣言することを提案致します。	
24番 七戸輝彦 (一問一答方式)	1. 洞爺地区(旧洞爺村)における集会所の使用方法について	(1) 虻田本町地区には「あぶたコミュニティセンター」、同洞爺湖温泉地区には「とうや湖コミュニティセンター」があり、希望があれば通夜、葬儀にも使用されている。洞爺地区において香川コミュニティセンターは同様の使用ができるか。 (2) 旧虻田町では各集会所等の使用予定があっても葬儀の申し込みがあった時、これを優先させる習慣があった。洞爺地区においては、その様なルールや習慣はあったか。 (3) 「寺院等を使用せずに、葬儀は公共施設で執り行いたい」という洞爺地区の住民の声も聞く。年間でもそう多くの回数とはならないと思うが、例えば総合センターについても、空いている時または、先約をしている方との話し合いがつけば、これを使用を許可してはどうか。	
	2. 子供を犯罪から守る施策について	(1) 虻田地区には「かけこみの家」、全児童に対する「防犯ブザー貸与」などの施策がある。洞爺地区においてなされてきたことは何か。 (2) 今後、洞爺地区においても特に登下校時に子ども達を犯罪から守るため、(1)の様な施策が必要ではないか。	
	3. 町民グラウンドについて	(1) 旧虻田町議会では、時々同様の質問をしてきた。6月12日に町長宛に提出された町民グラウンド再建の願いを込め、提出された要望書に対し、町長は如何なる思いを抱かれているか。 (2) 執行方針でも触れられていたが、庁舎内プロジェクトの具体的組織内容はどうか。 (3) 従来旧虻田町には、学校外のグラウンドとしては町民グラウンドと、母と子の館に隣接するグラウンドがあった。災害のため止	

		<p>む無く他の用途に使用することとなったが、早い時期の再建が必要ではないか。</p> <p>(4) 私的調査によると、近隣市町村の中で照明設備を有するグラウンドが無いのは、旧虻田町だけだった。合併した洞爺地区の学校等のグラウンドには照明設備があるが、それはそれとして虻田地区では将来どうする考えか。</p>	
<p>4番 五十嵐 篤 雄 (一問一答方式)</p>	<p>1. 広報「とうや湖」の一層の充実について</p>	<p>(1) 合併して早2ヶ月、旧地域の住民が新しい事柄に慣れようと努力している。3回の広報が発行されているが、旧虻田町方式で広報が作製されているようです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの広報を一本化するのに、どのような協議がなされたのか。 <p>(2) 必要情報はほぼ満足しており、住民への提供目的は果たしていると思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20ページの広報に情報を割り振る時、どのような基準で決めているのか。 <p>(3) 私なりに考えると情報があちこちに散在していたり、別情報として独立すべきもの、又表やカレンダーを採用した方がわかりやすいと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニター制度を利用し住民の意見が反映した一層充実した広報づくりにとりにくくのでは。 	
	<p>2. 育英基金貸付の現状と活用について</p>	<p>(1) 旧洞爺村では、なかった制度であり、教育費の負担を考えると住民にとってありがたい制度である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況としていつから始まった制度か。貸付している対象者と総額はどれくらいか。又返済の状況はどうか。 <p>(2) 厳格な審査が必要であるが、基金運用の状況を十分考慮した上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査基準の緩和、月額を増額、それに伴い必要に応じた基金の積み増しの検討はできないか。 <p>(3) この制度は、経済的理由で教育が受けづらい子供達の育成が目的であり、貸付であって補助や助成でないことから基金がなくなるわけではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の利用を促すとり組みをどのように行っているか。 	

